

第1回経営協議会における意見を踏まえた取組状況

① 顧客の視点

1. 病院が考える顧客の視点ではなく、実際に患者として利用された顧客の視点を意識することが重要である。

各病院において、患者満足度調査を毎年実施しており、その際に得られた結果や意見は各病院運営に反映させているところです。また、地域の医療機関を訪問し、病院の対応や接遇に関する聞き取りも行っています。今後も頂いた意見・結果を活かして、患者からの病院に対する視点を考慮しながら、よりよい病院づくりに努めてまいります。

2. 患者が病院を選ぶ際に参考にすることとして、やはりホームページの閲覧が多い。がん拠点病院として、患者が必要とする情報を得やすいようにホームページを工夫するなど、より多くの情報発信をすべきである。

総合病院では広報の充実も重要であると考えており、ホームページの随時更新や閲覧者に分かりやすいような改善、工夫に努めております。イベント開催情報をトップページに掲載し、「オープンホスピタル」を実施するなどホームページの充実と患者や地域の関係者との直接の交流と両面からの情報発信に努めてまいります。

3. 平均在院日数の短縮については、DPC2期以内の退院など、DPCを考慮して具体的かつ効果的な目標を設定すべきである。

目標値の設定においては、結果を検証し、今後の病院運営に反映する必要があります。次期中期計画において、目標を設定する際には具体的かつ効果的な目標を設定するように努めてまいります。

② 財務の視点

4. 業績指標として、より実績のわかる修正給与費等負荷率 $\{(給与費+委託料) / (医業収益-材料費)\}$ を出して、検討・議論する必要がある。

現状の経営状況の適切な把握・分析は厳しい経営状況を改善するにあたり、重要であると考えています。決算分析の際など必要に応じて、数値の把握、検討に努めてまいります。

5. 高額医薬品等が収支に影響し、年度間の比較が難しいのであれば、その影響を除いた分析もするべきである。

抗がん剤を始めとした高額医薬品の使用実績等については、定期的に把握しているところであり、必要に応じてその影響を除いた分析等も行っているところです。今後も効果的な経営状況の把握に努めてまいります。

6. 黒字決算となっている他病院の取組を検証し、参考にすべきである。

数年連続している赤字決算など非常に厳しい経営状況が続いていることから、病院事業庁全体で経営状況の交換など情報共有に努めているところです。これまでも民間病院経験者の登用や他病院の視察などを実施しており、他病院のよい取組から学び、経営改善につなげてまいります。

③ 内部プロセスの視点

7. チーム医療の実践については、実際に患者として入院した知人から、職種間の連携がよくとれていたと高い評価がされている。

質の高い医療を実現するために、各医療スタッフの専門性を高めると同時に各スタッフが互いに連携するチーム医療が重要であると考えています。今後も職種間連携を高め、よりよい患者サービスを提供できるように努めてまいります。

8. 職員の働き方について労働基準監督署から是正勧告があったが、時間外について業績評価指標として取り上げていない病院がある。指標として、3病院で統一して取り組むべきである。

病院事業庁では、ワーク・ライフ・バランスが実現され、働き続けやすい職場づくりに取り組んでおり、各病院において勤務状況を把握し、時間外勤務の削減に努めています。次期指標を作成する際には、3病院統一した指標についても検討します。

9. 地域連携について、県立病院は高度先端医療を目指すのではなく、地域に根付いた先進医療を行っていくべきであり、地域連携の取組、逆紹介率の向上に向けて地道な努力が必要である。

病院事業庁では、県内のどこに住むどなたにも適切な医療を提供することを基本方針としており、地域連携についても院長、診療科長を中心に診療所、病院を訪問するなどこれまでより取り組んでいます。今後も逆紹介率の向上も含めて引き続き取り組んでまいります。

10. 専攻医の専門研修プログラムを活用し、地域の医療機関と連携を深めるべきである。

総合病院では専門研修プログラムにより、来年度に一人目の研修医を派遣する予定となっています。琵琶湖マザーホスピタル事業などの取組と合わせて、地域との診療支援・診療連携に努めてまいります。

④ 学習と成長の視点

11. 人材の確保について、必要数の確保をしたうえで、ワークシェアをする等作業補助の使い方を検討するべきである。

メディカルスタッフの増員や医師事務作業補助者の増員を進め、スタッフの負担の軽減や医師の事務負担の軽減を図っているところです。今後もすべての職員がいきいきと活躍し、患者さんによりよい医療が提供できる県立病院を目指して人材の確保に取り組んでまいります。

12. 論文発表数などの目標設定の根拠が不明確であるため、今後はより明確な目標設定が必要である。

各病院の専門的な医療内容を発信するとともに職員の人材育成を図るため、論文発表数を目標指標としています。次期中期計画において、目標値を設定する際には効果的な目標を設定するように努めてまいります。